

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

# AGU News



AGUニュース第58号 [2011年8月~10月号]

2011  
No. 58 青山学院大学  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
URL: <http://www.aoyama.ac.jp>

## 特集 2012年4月、 文学部「比較芸術学科」誕生!

大学生が社会を支え、変えていく! ソーシャル・アクション  
特集 青学生たちの社会貢献

TOPICS 「満-みちる-」をテーマに、2011年度相模原祭を開催します  
躍動! 青山スポーツ  
2010年度の進路・就職状況について

報告・お知らせ 夏期休業期間中の窓口案内(7/11(月)~9/20(火))  
2011年度 ペアレンツウィークエンド今後の開催日程  
2011年度「青学オープンカレッジ」夏期講座

誌上公開講座 Aogaku Lecture②  
マーケティング・プランニング・プロジェクト

INFORMATION 大学学費後期納付について  
第18回 青山学院大学同窓祭 AOYAMA GREEN FESTIVAL 2011  
2012年度 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験日程



青山キャンパス

# 特集 2012年4月、 文学部「比較芸術学科」誕生!

文学部では、これまで培ってきた文学・思想・歴史学といった領域の教育・研究実績を生かしつつ現代に求められる新たな学びを提供するために、「比較芸術学科」を開設します。新学科で展開する学びと、人類の根源的な営みとされる芸術をジャンル・地域・時代を超えて比較し考察することで得られる人文学的「知」について、文学部長の西澤文昭教授と、開設準備室の浅井和春教授、高橋達史教授、那須輝彦教授、佐久間康夫教授に語ってもらいました。

## 文学部の将来を見据えた 新たな試み

**西澤** 比較芸術学科の目的は、人類の根源的な営みであり時代を映す鏡とも例えられる芸術を人文学的な立場から総合的に学び、人間を理解すること。それは言い換えれば、人間として必要な教養を学ぶことだともいえます。

**浅井** 数ある芸術の諸分野から美術・音楽・演劇映像という3分野を選んだのは、何よりこれらの芸術が伝統的な芸術分野として長い歴史を刻んできたこと、そして文学部の各学科ですでに教育・研究を行ってきた蓄積があるからです。それは歴史研究の中での芸術史、文学研究の中での演劇という形で行われてきましたが、その実績をひとつに凝縮し、芸術という視点から現代に見合った新たな学びを提供します。

**西澤** 比較芸術学科の開設は文学部全体の将来構想の中で大きな意味を持っています。既存の4学科(英米文学科、フランス文学科、日本文学科、史学科)では、それぞれの専門分野について文字資料を中心に学んできましたが、比較芸術学科では視覚や聴覚などの五感を活用して学ぶことになります。この新しい学びを他学科へも還元し、実学重視とされる現代社会にあって文学部全体を発展させていこうと考えています。



## 比較・古典・鑑賞を軸にした 総合的な芸術教育を提供

**浅井** 比較芸術学科では学びの軸として「比較学習」「古典重視」「鑑賞教育」を掲げています。学科名にも冠している「比較」については、1年次に「比較芸術学入門」という授業で美術、音楽、演劇映像すべての分野を学ぶ導入科目を用意しています。そこから年次があがるにつれ段階的に専門分野を選択していくことになりますが、3・4年次になっても少なくとも2分野の芸術を学べるようにしています。

**高橋** 文学や音楽が時間軸に沿って展開される時間芸術であるのに対して、西洋美術という分野、特に15世紀以後の主流であるタブロー画は、一枚で完結した空間芸術です。同時に起こっている複数の出来事の描写には強みを発揮できるのですが、時間の推移は暗示することしかできません。マンガと違ってひとコマで全体を示さねばならぬ限界を抱えているわけですが、他の諸分野と比較する授業で、絵画では美しい形や色彩の追求以外にもさまざまな工夫がなされていることを伝えたい、スリリングな体験を学生に提供したいと願っています。19世紀後半以降は静物画、風景画、抽象絵画などストーリー性を排除した分野が主流となったのですが、絵画における「メッセージ伝達の仕組み」を意識した授業を常に心がけるつもりです。

**那須** 音楽の分野でも西洋と東洋の比較だけでなく、歌舞伎や能・狂言といった日本の舞台芸術と音楽の関係を考える授業や、楽器の歴史的・地域的な変遷を辿ったり演奏会の歴史を探るなどといった文化史を学ぶ授業も計画しています。音楽を生み出した人々の



文学部長  
西澤文昭



開設準備室委員(美術担当)  
高橋達史

美意識や社会的背景はどのようなものであったのか、録音技術の誕生によって音楽はどう変わったのかなど、多角的な視点から人間と音楽との関係を考え豊かな感性を養ってほしいと考えています。

**佐久間** 演劇や映像作品は総合芸術といわれています。芝居やミュージカルや映画には、美術や音楽が欠かせません。映像作品も無声からトーキーへ至り、音楽を効果的に扱ってきた歴史があります。また、原典を文字資料として読むだけでは芝居にはならず、上演・上映されて初めて芸術作品となるという特色もあるのです。そのことを理解するためにも、相互の分野を比較しながら学ぶことで演劇・映像作品に対する理解は今まで以上に深まっていくことでしょう。

**西澤** 比較というのは人文学の研究手法としてベーシックなものとしてされていますが、実際に



開設準備室長  
浅井和春



開設準備室委員(音楽担当)  
那須輝彦

多領域を比較研究するのは容易ではありません。しかし本学科での「比較」は美術・音楽・演劇映像というジャンルの比較にとどまらず、時代や地域そして文芸と各ジャンルの比較など、立体的に学んでいくのが特徴といえるでしょう。また毎日めまぐるしく過ぎる現代社会において、古典を重視していることも特色といえるのではないのでしょうか。

**佐久間** 古典はただ古いのではなく、優れているからこそ残っているもの。ですから優れた作品を学ぼうとすれば古典を取りあげることになるのは必然ともいえます。江戸時代に書かれた歌舞伎も、400年前に書かれたシェイクスピアの作品も、今上演すればそれは現代の芸術作品として成立します。何度も読み継がれてきた原典が新たな解釈・演出を経て異なる魅力を持つ芸術作品に生まれ変わるというのは、どの芸術分野でも共通していると思います。

**那須** 音楽についていえばすでにありとあらゆるリズム、メロディ、コード進行が出尽くしてしまっていて、大ヒット曲とされるものでもある年代以上人間にとっては既存曲の焼き直しに感じられるというように、世代を超えた傑作の誕生に行き詰まっている面があります。最近では寺社巡りが流行するなど伝統的価値の再



開設準備室委員(演劇映像担当)  
佐久間康夫

評価が盛んですが、学生のうちに古典の真価に触れる経験を積んでおくことは、人間の深みを形作るうえで非常に有効だと思います。**高橋** 絵画に限らず20世紀の前衛芸術運動は、伝統を否定し「破壊」すること自体を目的化していた面もあったのですが、それこそ先史時代から連続と続く芸術の長い歴史の中に新しい創造の可能性を考えていく学習が、今こそ求められているのではないのでしょうか。

**浅井** とはいえ、すでに21世紀に入って10年が経つわけですから、20世紀以降の作品をまったく取りあげないわけではありません。ロックやジャズ、ビデオアートやシュールレアリズムの絵画・彫刻など、一定の時を経て多くの人々に認められ価値を形作った「古典的」現代芸術は数多くあります。また本学科は芸術の実技指導を中心にしているわけではありませんが、より深く鑑賞できるように実際の芸術世界に直接触れる機会を用意しています。

**那須** 音楽は消えてゆく芸術です。そこで手がかりとして楽譜を読むわけですが、これ自体が大きく変化しています。線のような音符や赤色音符を使ったり、七線譜を使ったり……。みなそれぞれ、それが最善と思われたのです。そうした古楽譜を解説して歌ってみることで、過

去の作曲家が作品に込めた思いを実感することも、人間の営みとしての音楽を理解するうえで、とても重要です。

**高橋** 実技の経験があるに越したことはありませんが、それを必須とするわけではありません。しかし例えば、絵に描かれたあるモチーフが何を意図しており、またどのような由来があってそのように解釈されるようになったのかを知っていくためには、図像学(イコノロジー)の知識を学ぶだけでなく、実際に簡単なスケッチをしてみるというのが役に立つはずですよ。

**西澤** 本学は国立の美術館・博物館と提携しており、学生は常設展に無料で入場することができます。また芝居や演奏でも学生ならではの割引制度が数多くあります。せっかく都心の文化資源に恵まれた環境で学ぶことになるわけですから、積極的に本物の舞台や演奏、作品に触れる機会を持ってほしいですね。感性豊かな学生時代に芸術に対する学習・研究を経験するのは、将来どんな進路を目指すとしてもきっと役に立ちます。

## 人間の本質を理解することが 将来の進路につながる

**佐久間** 私の教え子がイギリスと取引のある会社に就職した人がいますが、学生時代に学んだシェイクスピアの知識がすごく役に立ったと聞きました。相手の文化を知り、関心があることを伝えれば、異なる文化背景を持つ人とも円滑にコミュニケーションをとることができます。また演劇や映像作品にしても、演じる人、演出する人、舞台を作る人など多くの人が関わってひとつの作品となるものなので、それを理解することはさまざまな意見や主張が飛び交う現代社会を生きるためのヒントとなります。学生にはいつも言っているのですが、大学教育の目的のひとつは誰を相手にしてもどんな話題であっても会話ができるようになることだと考えています。これを成しとげるには大変な努力がいりますが、それは同時に挑戦のしがいがあることでもあります。本学科の学びの内容は、そのための心強い道標となるでしょう。

**浅井** 比較芸術学科の学びは、特定の職業に就くためのものではなく、どんな分野の仕事においても役に立つものです。直接的には美術館・博物館の学芸員など文化・芸術関係の進路が考えられますが、幅広い教養を生かしてマスメディアや環境、福祉、情報などの職種も考えられます。芸術を通して人間の本質をじっくりと学んでいくことのできる新しい学びに、ご期待ください。

# 1 青学生の想いを現場に届けるために。「ボランティア・ステーション」発足!

2011年3月11日の東日本大震災を契機に、「被災地のために何かしたい」「被災者の力になりたい」という想いが、学生の中で高まっています。そのように社会を支えたいという想いを持つ学生をサポートするために発足したのが、青山学院大学ボランティア・ステーション (AGU-VS) です。震災の復興支援を中心に、さまざまなボランティア活動を企画・運営していくというAGU-VSについて、学生運営スタッフ代表の荻原渉君、相模原代表の田丸佐季さん、広報担当の近藤圭さんの3人に話を聞きました。

## AGU-VSに参加したきっかけ

**荻原** 4月にNGO団体を通じて石巻市でのヘド除除去ボランティアに参加したのですが、大学生のボランティアが少ないと実感しました。そこでボランティアから帰ってきてまわりの友達に話を聞いてみると、「行きたいけれどきっかけがない」という声がとても多かったのです。そんなときに大学でボランティア支援組織が立ちあがるという話を聞いて、「こういう組織が必要だったんだ」と感じて参加しました。

**田丸** 私は昨年国際協力について学び合う「GLEP Youth」という国際政治経済学部の学生団体に所属していました。その取り組みのひとつとしてネパールでのゴミ拾いに参加したのがボランティア初体験です。それからボランティアに興味を持つようになり、学生にできることがもっとあるのではと思っていて、ボランティア・ステーションが発足するのを知って参加を決めました。

**近藤** 私は2人とは違って、これまでボランティアの経験はありませんでした。東日本大震災が起きてからずっと何かしたいとは思っていたのですが、ガレキを動かす力もないし、医療の知識があるわけでもない。自分に何ができるかわからなかったのです。そのときステーション設立の話を知り、自分の力が生かせるかもしれないと思い学生スタッフに応募しました。私と同じように、何ができるかわからないという人たちに適切なボランティアを紹介していきたいと思っています。

荻原 渉君  
 法学部法学科3年

近藤 圭さん  
 国際政治経済学部  
 国際政治学科4年

田丸 佐季さん  
 国際政治経済学部  
 国際コミュニケーション学科2年

## ボランティアの現場を体験して

**近藤** 東日本大震災の被災地へボランティアを派遣する企画が、ステーションとしての初仕事でした。先日は現地のボランティアニーズを調査するために気仙沼市を訪れ、避難所で生活している方などに意見を聞ききました。やはり街の復興やガレキの撤去、就職先の支援など生活に関わることに多くの支援が必要ようです。

**荻原** 確かに生活の復旧が急務だと思います。石巻市でボランティアをしていたとき、コンビニを経営していた高齢者のお宅へ伺ったのですが、「津波で店舗は流されてしまったし、もう高齢なので今から新しい仕事を探すのも難しい。元の生活には戻れないかもしれない」とおっしゃっていたのが印象に残っています。

**田丸** そうやって被災者の声を聞いてあげるだけでもこころのケアになると思います。私は震災前に宮崎県の新燃岳で噴火灰除去と足湯のボランティアに参加しましたが、皆さんとても喜んでくれて「ありがとう」「また来てね」とおっしゃってくれました。

**荻原** 「ありがとう」と言っていただけなのは、何よりの喜びですよ。ボランティアに参加して、こんなに感謝されるなんて思っていませんでした。人に喜んでもらえると、自分の自信にもなり元気をもらえる気がします。だからこそもっと多くの青学生にボランティアのすばらしさを実感してもらい、自信や元気をつけてほしいですね。

## 青学生の高い関心に驚き、感動

**荻原** ボランティアに興味を持ってもらえるかどうかということが心配でしたが、大学のポータルサイトやチラシ、掲示板などでボランティアへの参加を呼びかけたところ、600人以上の応募がありました。説明会の教室に入りきらず立ち見が出るほどで、あの光景を見たときは本当に感動しました。

**田丸** 私のまわりでもすごく興味を持ってもらえたようで、友達からは「ボランティアをしたい」というメールがよくきます。ボランティアに興味を持っている人は、ぜひ今からでもボランティア・ステーションの部屋にきてください。

**近藤** ブログやツイッターでの広報活動も始めていて、今後はこうしたウェブでの広報をさらに充実させていきます。教室に足を運ばなくてもPCや携帯で気軽にコンタクトをとれるようになれば、もっと手軽にボランティアに参加するきっかけができると思うのです。

現代社会が抱えるさまざまな問題——それらを解決していくのは政府や企業だけではありません。社会の問題を知り「何かをしたい」と思った人たちが、職業や立場に関わらず自分なりの方法で取り組む「ソーシャル・アクション」。今回は青学生が主体となって取り組む3つの事例を紹介します。

## AGU-VSのこれから

**近藤** これからはボランティア・ステーションの活動を軌道に乗せていくためのシステムづくりが大切だと考えています。一過性のボランティア活動で終わるのではなく、長く続けるための仕組みを整えていきたいと思っています。

**荻原** 今後はもっと身近なボランティア活動も企画していきます。身の回りのことから始めて、そこから更に遠くの地方や国際的なボランティアができる組織へと育てていきたいです。かつて青山学院は明治・大正時代の震災のときにも、地域の方々の避難場所として大きな役割を果たしました。それを見習ってボランティア・ステーションを渋谷区に防災に関わる中心的な組織のひとつにしていきたいです。

**田丸** 相模原キャンパスでも市のボランティアセンターや災害対策本部と連携し、地域に根づいた防災への取り組みを企画していきたいと考えています。市民への啓発運動をしたり防災マニュアルを改善するお手伝いをしたりすることで、街の人々から本当に必要とされる組織になれるのではないのでしょうか。また今度の学園祭では、青山・相模原両キャンパスでボランティア・ステーションのブースを出展します。東北名物の食事を提供しながら、ボランティア活動の様子を展示する予定です。青学生にもっとボランティアについて知ってほしいですね。

## ボランティアとは、そしてAGU-VSの役割とは

**近藤** ボランティアというのは必要とされることに応えるのが基本ですが、100%すべての人々を満足させることは難しいです。しかし学生が現場へ行って、見て、感じて、そこから何かを学ぶことができれば、その行動は決して無駄にはならず、きっと誰かの助けになれると考えています。

**荻原** 確かにどんなニーズがあるのか考える努力を怠ってはいけません。でもすべての人々に公平に手を差し伸べるのは、ボランティアではなく国や自治体です。自分たちにできるのは特定の誰かのために役に立つこと。自分の中に「誰かの役に立っている」という自覚があれば、ボランティアは成立するのだと思っています。

**田丸** けれどボランティアは個人の志だけでは難しい面があるのも事実です。災害が起こったとき、行政組織には活動できる人員が限られている一方で市民によるボランティアは数が多すぎてまとまるのが難しい。ボランティアを必要とする側とボランティアをしたいという側とを上手に結びつけたいと思います。AGU-VSはその両方を結ぶ橋渡しの役割を担うステーション(中継所)として、名前に対応しい働きができるようにしていきたいですね。



ボランティア説明会

## ボランティア・ステーションの紹介

経済学部経済学科1年 和田 衣里子

ボランティア・ステーションは「社会に奉仕したいという想いを持つ学生に対し、社会のニーズに合ったボランティア活動の機会を提供し、青学生が「地の塩、世の光」となり、助け合い生きる世界を目指す」というミッションを掲げて発足しました。主な活動は、「ボランティアに興味があるけど、どうしていいかわからない」という人に対して、安心してボランティア活動を行ってもらえるように情報を提供することです。

今年の夏休みは東日本大震災の被災地へのボランティア派遣を企画・実施しました。いまのところは国内でのボランティアが中心ですが、いずれは海外でのボランティア活動も行っていきたいと考えています。

ボランティアに興味がある方はまず、私たちボランティア・ステーションを訪れてみませんか? それぞれのキャンパスのステーションには学生スタッフが常駐しているので、なにかご質問がありましたら気軽にお越しください!

- 相模原キャンパス G棟303 月曜～金曜 11:00～18:10
- 青山キャンパス 11号館1163 月曜～金曜 11:00～18:00

ボランティア・ステーションの活動は随時、ウェブで紹介しています。

ボランティア・ステーション	大学ウェブサイト <a href="http://www.aoyama.ac.jp/life/student/volunteer.html">http://www.aoyama.ac.jp/life/student/volunteer.html</a> 学生スタッフブログ <a href="http://ameblo.jp/agu-vsta/">http://ameblo.jp/agu-vsta/</a>
---------------	---

## 夏休みのボランティア企画

国際政治経済学部国際コミュニケーション学科3年 加藤 直道

ボランティア・ステーションではこの夏休み、下記のボランティアを企画・実施します。すでに参加者の募集は終わっていますが、今後もさまざまな取り組みを予定しているので、ボランティア・ステーションの今後の活動に期待してください!

- 多賀城市 子どもボランティア (7/23～8/20、1週間交代4グループ、定員各20名)**  
 多賀城市は比較的復興の進んでいる地域ですが、保護者が日中働きに出ている間、児童館で過ごす子どもたちが数多くいます。多賀城市内の児童館で指導員補助のお手伝いをさせていただきます。
- 石巻市 復興ボランティア (7/23～9/4、1週間交代6グループ、定員各25名)**  
 石巻市の震災被害は甚大で、商店街は壊滅的な状態です。かつての活気ある商店街を取り戻すため、道路ブロックの掘り起こしと街路の復旧補修作業を手伝います。体力を使う作業なので、体調管理には十分気をつける必要があります。
- 大船渡市 学習ボランティア (7/13～9/14、1週間交代9グループ・2週間交代8グループ、定員各2～8名)**  
 小学生を対象とした「夏休み子ども会」、中学・高校生を対象とした「夏休み勉強会」を準備・実施して学期開始が遅れた児童・生徒に対して勉強面でのお手伝いをします。また、市の災害ボランティアセンターの活動支援も行います。
- 気仙沼市 学習ボランティア (8/1～8/7 定員9名)**  
 中学1～3年生を対象に夏休み勉強会を開催します。教える教科は英語・数学・理科で、個別の学習支援を行います。

## ボランティアに参加する際の安全保証について

国際政治経済学研究科教授/AGU-VS顧問 塚本 俊也

青山学院大学の初めての取り組みとして、ボランティア・ステーション (AGU-VS) が発足しました。被災地では、さまざまな活動が展開されているようですが、どこで、どのような活動がされていて、いかに安全に活動ができるかなどの情報の入手が難しいところを、AGU-VSが、代わって情報を収集し、紹介しています。

参加者は必ず事前研修を受講、またボランティア保険に入っていること、現地の受け入れ先との連携で、有事の際の問題に対しても対応できる準備を整えています。

## 2 楽しむ社会貢献「はじめよう！スマホでボランティア」

5月21日、NPO法人Checkと経営学部が共同で「スマートフォンを使った社会貢献イベント：はじめよう！スマホでボランティア」を開催しました。このイベントは、青山キャンパスがある渋谷の街の多機能トイレがどこにあるかを調べ、「渋谷トイレマップ」を制作しようというものです。高齢者・障害者の方が安心して外出できるようにするとともに、こうした取り組みを周知してボランティアの輪を広げることを目的としました。Check代表理事の金子健二氏、経営学部マーケティング学科の芳賀康浩教授、そして運営を担った高木賢哉君、駒場史幸君にイベントを振り返ってもらいました。

**芳賀** 経営学部には、学部行事に参加してくれる学生が非常に多くいました。そこで、School of Business Student Leaders (以下SBSL) という学生団体を組織してオープンキャンパスの運営などをしてもらっていましたが、そのなかの有志の提案から実現したのがこのボランティアイベントでした。

**金子** 企画を練り始めたのは今年の2月から。学生たちに自ら考え気づいてもらいたいと考えていたので、何度も打ち合わせてどうやったら参加者が増やせるのか、どうしたら楽しいイベントになるのか企画を詰めていきました。

**駒場** 参加者を集めるためにチラシの作成やウェブでの告知など、自分たちなりにいろいろな工夫をしました。また「スマホでボランティア」というキャッチコピーを考えたり、オリジナルのジャンパーをイベント当日に着ることで周囲にPRしようと考えました。

**高木** イベントそのものを楽しんでもらうために景品も用意しました。当日は3人ひと組のグループでトイレチェックをもらってチェック数を競うというゲーム形式にしたのですが、景品の満足度とコストのバランスを考えなければならないということも勉強になりました。

**芳賀** このような経験は、経営学部の学生にとって大きなメリットになります。経営学部の学びが難しいのは、学生にはビジネス経験がないということ。ビジネスの経験なしにビジネスを学ぶというのは実感がともなわないのです。そこで未来のビジネスリーダーを育てることを目標とする経営学部としては、社会や企業のあり方を実地で経験することで、仕事を創造していける力を身につけるといった教育効果を期待しています。

**金子** 学生たちには単にイベントを行うだけではなく、自分たちならではのコンセプトを考えてもらいました。そこで出てきたのが車イスの導入という意見です。

**高木** もっと障害者の視点にたったイベントにしたいと考えたのです。そこで車イスをお借りして自分たちで体験してみることにしました。車イスだと普段何気なく使っているお店も段差があって入れなかったり、渋谷は坂が多いので下り坂でとても悪い思いをしたりと、新しい視点に気づかされました。改めて今回のトイレチェックのような活動が必要だと実感できました。

**駒場** ただ、思ったより周囲を歩く人たちに関心を持ってもらえなかったことが反省点ですね。それが分かったのも大きな成果ではありますが、こ

うしたボランティア活動は多くの人に知ってもらえなければ継続できないので広報や告知の大切さを痛感しました。

**高木** 多くの社会人と交流できたのもいい経験となりました。企業や団体で働く人たちは、メールのやりとりひとつとっても学生の感覚とは違います。ビジネスの現場では誠実な対応がなにより求められるのだということを学ぶことができました。

**駒場** これまでボランティアには自己犠牲の精神が必要だと思っていましたが、実際にやってみると楽しいし、社会を支えているんだという実感が持てる。逆に言えば自己犠牲だけでは続きません。今回のような「楽しめるボランティア活動」をもっと広めていければと考えています。

**金子** こうした体験からは、社会人としての人間関係やビジネスの厳しさ、そして社会貢献とは何かということが学べます。これは就職活動でも評価される実績となるし、もちろん社会に出たあとに必要な力も身につきます。社会貢献の輪を広げるために、これからも一緒にがんばりましょう！



(後列左より)  
**芳賀 康浩**  
 経営学部マーケティング学科教授  
**金子 健二氏**  
 NPO法人Check代表理事  
**高木 賢哉君**  
 経営学部経営学科2年  
**駒場 史幸君**  
 経営学部経営学科2年

NPO法人Checkと連携したボランティアプロジェクトは、今後もさまざまな形で展開していく予定です。現在すでにふたつのプロジェクトが進行中。ひとつは夏祭りや花火大会など野外イベント会場のトイレチェック。もうひとつは、SBSLメンバーに協力してもらい、夏休みの帰省の際に地方のトイレチェックをってもらうというものです。9月にはその報告会も予定しているため、全国へと広がるプロジェクトの今後に期待してください。

## 3 新しい人材育成「ワークショップデザイナー育成プログラム」

従来大学に求められる役割は、「教育」と「研究」でした。しかし今、大学が培ってきた教育力を活用した「社会貢献」が新たな役割として、大きな期待が寄せられています。本学では2009年、大阪大学との共同事業として「ワークショップデザイナー育成プログラム」を立ちあげました。社会人を主な対象とし、よりよい社会の実現に貢献する人材を育成する本プログラムの意義について、プログラム代表の苅宿俊文教授と、プログラムの修了生で更なる学びを求めて大学院へ進学した小島潤子さん、渡辺タケシさんに聞きました。



### コミュニケーションを通して 支え合える社会をつくる

社会情報学部教授  
 苅宿 俊文

現代社会は価値観の多様化や仕事の分業化などで、人と人との関わりが少なくなっています。しかしその一方で、そのような社会に適応していくためにはコミュニケーション力が必要とされることも事実です。例えば医療現場は専門化・分業化が高度に進んだ業界ですが、患者さんを中心とする医療を実現するためには、医師や看護師が相互に支え合い、協働していけるだけのコミュニケーション力が必要となるのです。

このような社会で必要とされるのが、コミュニケーションの場をつくる専門家としてのワークショップデザイナーです。ワークショップデザイナーの役割は、人々のコミュニケーション力を高めるために適切なワークショップ

(参加型の学びの場)を企画・実施すること。教育現場でもワークショップを通して子どもたちにあらゆる場面に対応できるコミュニケーション力をつけようという取り組みが始まっていますが、ワークショップによる学びは大人にとっても有効です。

本プログラムでは基礎から応用まで、理論学習と実践を組み合わせた螺旋型のカリキュラムを組んでいます。修了された方には学校教育法に基づく履修証明を発行することで、確かな力が身につけていることも保証します。この2年間は文部科学省の支援を受けたプログラムとして実施していましたが、今年度からはワークショップデザイナーの必要性に共感した大学間でコンソーシアムを設立してプログラムを運営しています。

これまでに300名を超える方が修了され、ワークショップデザイナーとして社会を支えています。知識として学ぶのではなく、地域で、社会で現場に立ってコミュニケーションの場をつくっていくワークショップデザイナーを、これからも育てていきたいと考えています。



### 地域に根つき、地域のなかで 存在していくワークショップをつくる

第2期プログラム修了生  
 社会情報学研究所ヒューマンイノベーションコース2年  
 小島 潤子さん

本プログラムに参加して感じたのは、一方的に知識を教えるだけでは本当に「学ぶ」ことはできないということです。理論的な学びと実践を交互に繰り返すことで、ただの知識が生きた知恵に、ただの体験が生かせる経験に変化していきます。実際に小学校などでワークショップを実施するという実習も、1回目よりは2回目の方がうまくいくし、問題点にも気づくことができる。学びの仕組みがよくデザインされたプログラムだと思います。

一番の収穫は初めて出会う人たちと協働するうちに自分のことを客観的にみられるようになったことがあります。これまで企業の研修講師をつとめるなかで、「ファシリテーターとはこうあるべき」と規定して、結果として一方的に知識を詰め込むことに終始してしまっていた部分がありました。しかし今では集まってくれた人たちに応じて、柔軟に対応することを心がけています。

現在は同時期にプログラムに参加したメンバーで「はら塾カフェ」という団体を立ちあげ、カフェ感覚で気軽に参加してもらえるワークショップを実践しています。例えば前回は、風評被害にあっている茨城県の農家の方を招いて代々木公園で野菜パーティーを行いました。こうした地域に根つき、地域のなかで存在していけるワークショップを、今後も続けたいと考えています。



### 社会のあり方を変える コミュニケーションの場を模索

第2期プログラム修了生  
 社会情報学研究所ヒューマンイノベーションコース2年  
 渡辺 タケシさん

本プログラムの参加者は全く異なるフィールドの人たちの集まりで、年齢も10代から50代までバラバラ。そんな人たちがひとつの目的に向かってワークショップをつくりあげていくというのはとても新鮮な体験でした。例えば小学校でワークショップを開くためにグループで意見のすりあわせを行うという場合でも、なかなか意見がまとまらない。しかし大変な苦勞をしてひとつの共通意識が生まれたときには、言葉にできない爽快感がありました。

現在は自宅を開かれた場として近所の子どもたちに開放し、ワークショップを開催しています。そのなかでさまざまな課題もみえてきました。子どもや保護者の信用を得なければワークショップは実現できませんが、現代社会では「知らない人には近づかない」というのが当然の常識になっている。これでは開かれたコミュニケーションの場を実現するのは難しいのです。

信用し、信用されることを前提とした社会を形づくっていくことがこれからの日本には必要であると考えています。その実現のためにワークショップデザイナーとして一端を担いつつ、新しいコミュニケーションの可能性を探っていきます。

## 「満—みちる—」をテーマに、2011年度相模原祭を開催します



相模原祭実行委員会 委員長  
毛塚 崇司君  
経営学部経営学科2年

今年の相模原祭は10月8日(土)・9日(日)に開催します。相模原祭はもともと地元・相模原市とのつながりが強く、地域の子どもたちやお年寄りが大勢来場されるのが特徴です。今年のテーマである「満」は「満足度日本一の大学祭にしよう」という意気込みから生まれました。来場者はもちろん相模原祭に関わったすべての人たちが、満面の笑みを浮かべて楽しみ、喜べるものにしたと考えています。

特に力を入れている企画は、去年も大盛況だったファッションショーやアリーナでのパフォーマンスです。ファッションショーは「サガフェスコレクション」と銘打ち、50人ほどの学生モデルに参加してもらいます。学生団体による本格的なBGMも用意して大々的に開催するので、「オシャレな青学生」を存分に発揮してもらいたいと思っています。パフォーマンスは「ミックスカルチャー」をテーマとして、これまで単独で行ってきたジャグリングやダブルダッチなどにコラボしてもらおうと考えています。今年は多くの文化系団体に参加してもらうことができ、書道研究部と長唄同好会のコラボで長唄に合わせて書を



披露するなど、例年にないさまざまな団体によるパフォーマンスを考えているので、ぜひ注目ください。

毎年「環境とリンクした大学祭」をコンセプトにしているのも相模原祭の特色です。今年は環境に配慮した企画として「ワクワクエコパーク」という参加型のイベントも用意しています。これは廃油を利用したエコキャンドルや洗剤いらずのアクリル製タワシなどを来場者につくってもらい、環境への意識を高めてもらおうというものです。また「エコレンジャーショー」という環境問題をテーマとしたヒーローショーも開催予定。以前みなどみらいのイベントにも参加したのですが、子どもたちが大勢集まってくれて大喜びしていました。相模原の子どもたちにも大いに楽しんでいただきたいです。

今年は東日本大震災の影響で節電が呼びかけられています。そのため相模原祭でもこれに協力しようと、開催時間の短縮や展示場所をまとめるなど、なるべく電力消費を減らすように配慮しました。被災地に向けた募金活動や出展団体の売り上げの一部を寄付することも予定しています。いくつかの制約はありますが質を落とすことなく、青学生が最高に盛り上げられる相模原祭にしたいと思います。日本一の大学祭だと自信を持っていますので、多くの方の来場をお待ちしています。



相模原祭の最新情報は <http://sagamiharasai.com/>

## 対東北学院大学総合定期戦、9月に開催決定!

本学と同じくキリスト教に基づく建学の精神を持つ東北学院大学と、お互いに交流を深めながら真剣勝負をする伝統の対抗戦が、この「対東北学院大学総合定期戦」です。1950(昭和25)年に始まって今年で62回目。本当にライバルと認め合える相手と全力でぶつかる、選手みんなが待ちに待った大会です。会場は1年ごとに交代でそれぞれのキャンパスを使用し、およそ30種目の公式戦と数種目のオープン競技を競います。ところが今回の震災で会場となる東北学院大学が大きな被害を受け、開催が危ぶまれました。

しかし双方の学生からは「多くの先輩たちが築き上げてきた60年以上続くこの伝統を絶やしたくない」という声があがってきました。そこで、両校の体育会同士で定期戦開催に向けた協議を重ねることに。OB・OGの方も熱心に連絡を取り合ってください、なんとか9月に時期をずらしての開催が実現しました。両校は地理的には遠く離れていますが、心理的な距離はとても近く、この定期戦にける想いは同じなのだと思います。

体育会学生本部長として臨む今回、当初は勝ちにこだわりたい



体育会学生本部長  
原田 脩平君  
経営学部マーケティング学科3年

と考えていました。しかし今ではそれ以上に、正々堂々と全力で試合に臨むことを第一に考えています。「スポーツを通じて勇気を与える」というとおこがましいですが、全力で競技に打ち込むことが、今、自分たちができる復興支援なのだと思います。

### 〈対東北学院大学総合定期戦〉

- 日時 9月2日(金)～4日(日)
- 場所 東北学院大学
- ※ヨット競技は神奈川県横須賀市秋谷で開催

## 躍動! 青学スポーツ

箱根、出雲、全日本、学生3大駅伝すべてに初めて出場を達成!



### 陸上競技部



監督 原 晋

「全日本大学駅伝」の予選会が2011年6月25日(土)に国立競技場で行われ、本学陸上競技部は総合トップで2年ぶり2度目の本戦出場を決めました。これにより、すでに出場が決まっている箱根駅伝、出雲駅伝とあわせて学生3大駅伝すべてに出場することとなりました。これはチームにとって初めてのことで、大変うれしく思っています。

今回の予選会は自信を持って選手を送り出すことができました。これは2004年から部の抜本的な改善に取り組み続けてきた結果、ようやくチームとしての地力がついてきたということだと思っています。また出岐雄大(社会情報学部3年)がエースといえる存在に育ってくれたことも大きいです。8月に中国で開催される「ユニバーシアード」のハーフマラソン日本代表選手にも選出され、まだまだ伸びる余地を秘めていると感じます。

ただし3大駅伝すべてをベストメンバーで戦い切るには選手層がまだまだ薄いのも事実なので、これからは1・2年生を積極的に起用して選手層を厚くしていきたいと考えています。出雲・全日本は3・4年生にはステップアップの場として、1・2年生には駅伝を経験する場として挑戦してもらいたい。最終的には箱根駅伝3位以内を目指しています。この目標は昨年掲げましたが、今度は現実的にそれを目指す力がついてきています。ぜひ多くの方々に現場へ足を運んで選手を激励してもらいたいと思います。



### 男子バスケットボール部



監督 長谷川 健志

バスケット主要4大会、2年連続4冠達成を目指して!

昨年の学生主要大会4冠に続き、今年の新チームも関東大学選手権、関東大学新人戦に勝つことができました。大会直前に故障者が続出したり震災の影響によって練習試合が少なくなるなど不安な部分も少なくありませんでしたが、2年連続4冠達成に向けて選手達は懸命に努力を続けています。

今年は経験豊富な3・4年生を中心に、急速に力をつけてきた2年生がうまくかみ合った良いチームができてきました。なかでも張本天傑(国際政治経済学部2年)の成長は著しく、卒業した先輩の穴をしっかりと埋める存在になっています。新人戦においても、畠山俊樹(総合文化政策学部2年)、小林運太(経営学部2年)がバスケットボール選手としては小柄ながら素晴らしい動きをみせ、優勝を勝ち取ることができました。

ここぞという勝負どころで良いプレーができるのも成長の証です。例えば一瞬の隙について相手チームのリズムを崩していくような動きができるようになりました。こういった勝負の駆け引きができるようになったのもこれまでの経験で得た自信があるからこそでしょう。しかし各チームは我々を目標として思い切った勝負を挑んでくれます。彼らをはねのけて優勝するには、単なる自信ではなくもっと強い勝利への確信が必要で、これは日々の厳しい練習の積み重ねからしか得ることはできません。

秋の関東大学リーグ戦と12月の全日本大学選手権を勝ち抜くために、そして応援してくださる方々の声に応えられるように、トレーナーやコーチ、選手が一体となって頑張っています。秋にはもっと良い報告ができるはずなので、ぜひご期待ください。

### 硬式野球部

## 日本一の東洋大を破るも春季リーグは2位 硬式野球部の秋季での活躍にご期待ください



硬式野球部は東都大学野球連盟「平成23年度春季リーグ戦」において、6大学中2位の成績で全日程を終了しました。リーグ戦前半は3連敗と出遅れましたが、その後調子を取り戻し6連勝。優勝には届きませんでしたが、6勝5敗の2位にこぎ着けました。とくに優勝した東洋大学との試合では、「0対1」「1対0」と相手打線をほぼ完璧に抑えての勝利。投手成績の防御率ベスト10に3名の投手がランクインしたことから

もわかるように、チームの特色“守り勝つ野球”の手応えを感じることができました。また、「ベストナイン」に指名打者として佐野力也君が選出。チーム力全体の向上も実感できる結果となりました。

平成21年度秋季には2部降格の悔しさも味わった硬式野球部ですが、その後すぐに1部に復帰。優勝争いに絡むまで力をつけています。秋季リーグ戦では平成18年春季以来の優勝を目指す硬式野球部に、大きなご声援をお願いいたします。

## 2010年度の進路・就職状況について



就職部長  
懸田 豊  
総合文化政策学部教授

2010年度の卒業生は4,022名であり、ほぼ100%の進路(就職・進学計)捕捉率でしたが(不明6名)、進路決定率は本学全体では83.6%であり、前年の84.5%に比べて僅かではあるが低下を示しました。うち就職者率は72.5%(昨年度72.8%)、進学者率は11.1%(同11.7%)、進路保留者率16.2%(同15.5%)でした。就職者率は0.3ポイントの低下ですが、就職決定率(新規採用決定者率)は66.6%であり、前年の66.0%を上回っています。文部科学省と厚生労働省の実施する就職内定状況調査によると、2010年度の就職状況はきわめて厳しいことが報じられていることから、本学の卒業生はよく健闘したと評価できます。

第一部生の進路決定率を学部別にみると、理工学部が最も高く93.6%(昨年度92.2%)であり、以下、国際政治経済学部87.9%(同92.0%)、経営学部86.6%(同83.3%)、経済学部84.1%(同86.3%)、文学部83.4%(同85.6%)、法学部80.3%(同81.3%)と続きます。第二部生の進路決定率は71.8%(同73.6%)です。また、女子学生の進路決定率は84.3%(同86.9%)であり、男子学生の83.0%(同82.2%)を上回っており、特に就職決定率では女子学生72.0%(同72.3%)に対して、男子学生は

61.9%(同60.0%)と、男子学生の進学者率が高いということもありますが、女子学生の就職決定率は男子学生を大きく上回っていることが示されています。

2009年度に卒業延期を認められた53名の、この4月以降の状況は、就職28名、進学1名、就職活動継続中15名、各種試験準備中4名、進学準備中1名、未定1名、再度の卒業延期申請者2名、未確認1名であり、進路決定率は54.7%にとどまっています。卒業延期が必ずしも好ましい結果をもたらしたとは言えず、2010年度の卒業延期者が200名を超えることを考えると、安易な卒業延期制度の利用を戒めるとともに、卒業延期者に対する進路・就職支援の特別な取り組みが必要になってくると考えています。なお東日本大震災の影響による採用取消、採用延期は、現在のところ各々1名を把握しています。

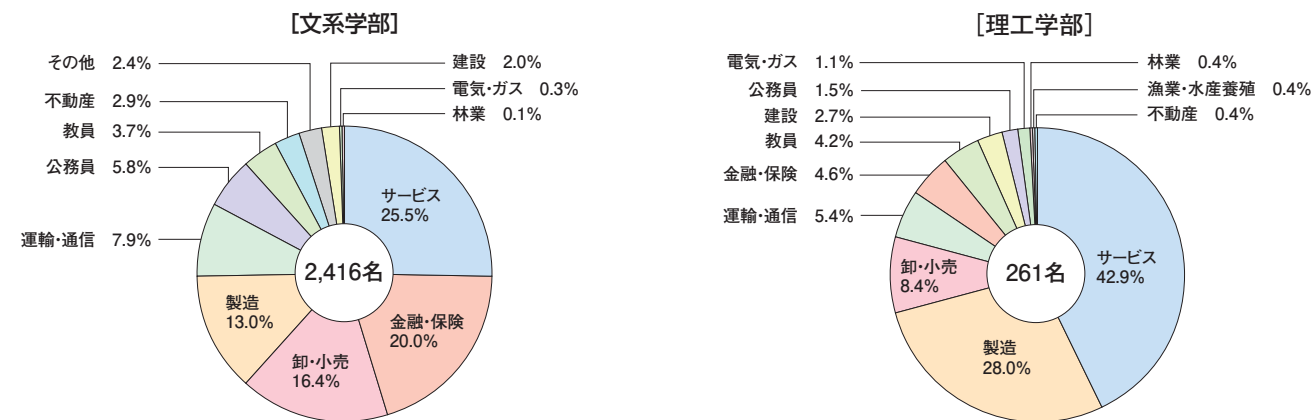
また2011年度の就職については、大震災後、4年生の採用試験を延期する企業が相次いでいるとともに、3年生に対する採用計画を遅らせる動きもみられるなど就職環境はきわめて不透明になりつつあります。2009年に4年制大学への進学者率が初めて50%を超え、採用選考においては、単に大学生活をどのように過ごしたかということではなく、どのような職業観をもち、そして大学生としての学力をどれだけ持っているかということが、これまで以上に厳しく問われることになるでしょう。

### 2010年度 卒業生の進路状況

進路	学部	文学部	経済学部	法学部	経営学部	国際政治経済学部	文系学部計	理工学部	昼間部計	文学部第二部	経済学部第二部	経営学部第二部	第二部計	総合計
2011年3月卒業生		1,113	547	522	536	281	2,999	513	3,512	155	208	147	510	4,022
進路決定者		928	460	419	464	247	2,518	480	2,998	109	147	110	366	3,364
進路決定率		83.4%	84.1%	80.3%	86.6%	87.9%	84.0%	93.6%	85.4%	70.3%	70.7%	74.8%	71.8%	83.6%
就職	就職者計	858	432	368	440	222	2,320	277	2,597	93	136	91	320	2,917
	就職者率	77.1%	79.0%	70.5%	82.1%	79.0%	77.4%	54.0%	73.9%	60.0%	65.4%	61.9%	62.7%	72.5%
就職	新規採用決定者	794	420	355	425	213	2,207	261	2,468	51	101	57	209	2,677
	自営業・現職継続・臨時雇用者	64	12	13	15	9	113	16	129	42	35	34	111	240
進学	進学者計	70	28	51	24	25	198	203	401	16	11	19	46	447
	進学者率	6.3%	5.1%	9.8%	4.5%	8.9%	6.6%	39.6%	11.4%	10.3%	5.3%	12.9%	9.0%	11.1%
進学	大学院等(海外含む)進学者	55	22	46	20	24	167	202	369	13	6	15	34	403
	専門学校進学者(海外を含む)	15	6	5	4	1	31	1	32	3	5	4	12	44
その他		185	87	103	72	34	481	33	514	46	61	37	144	658

※「進路決定者」は、「就職者」と「進学者」の合計  
※「その他」の欄には、進路保留者、進路届未提出者6名が含まれます。

### 業種別 就職決定率(新規採用決定者率)



## 社会に広く開かれた「青山学院大学大学院」

～本学大学院・専門職大学院への進学を考えるみなさんへ～



副学長  
長谷川 信

従来の大学院では、学部を卒業した学生がそのまま大学院生として研究室に残り、質の高い研究者教育を受けることで一人前の研究者として旅立っていくという流れが一般的でした。もちろんその考え方は今も生きていますし、現に多くの優れた研究者が本学の大学院からも巣立っています。しかし多様化する現代社会を背景に、学部卒業生だけでなく、社会人や留学生がより高度な知識を学ぶための教育機関として、大学院には大きな期待が寄せられています。

すでに実務経験のある社会人が大学院で学ぶ場合、身につけた技能は、かなりピンポイントな専門的内容になると想像できます。逆に学びの場を提供する大学院側から見れば、求められる学問領域は、院生それぞれによって異なるため、多領域にわたることになります。社会人に門戸を開くことは、「広く学べる環境」とともに、「より深く学べる環境」を用意することが必要となるのです。それは「基礎的理論」と「専門的実践」とが融合した学びと言い換えられるかもしれません。

本学の大学院の大きな特色として、3つの専門職大学院(国際マネジメント研究科、法務研究科、会計プロフェッション研究科)を、早い

段階から設置している点が挙げられます。これは、「より高度な専門教育を受けたい」との社会からの要請に応えたもので、院生には社会人の方が多く、研究科での学びを自らの仕事の成果につなげようと高い意識で学ばれています。学部に対応した9研究科を擁する大学院でも、研究者養成という従来からの目的を実現するための高度な教育はもちろん、社会人や留学生の方々の多様なニーズに応える教育プログラムを柔軟に提供しています。

特に2012年度は、総合文化政策学部と社会情報学部が初めての卒業生を輩出するため、一期生の中からも更なる学びを求めて大学院に進学する学生が出てくるでしょう。両学部とも学部開設と同時に研究科を発足しており早くもその成果を出しつつあるので、必ずや満足してもらえる教育内容をご提供します。

制度的な面からも昼夜開講制、学部と大学院との一貫教育、社会人・卒業生向け入試の実施など、大学院への進学を考えている方々をバックアップする体制を整えています。研究科により実施している制度が異なりますので、詳細は本ページの下段をご覧ください。

ぜひとも多くの方々に、本学大学院、および専門職大学院に進学いただき、高い目的意識をともなう学びを実践していただきたいと思えます。

## 2011年度大学院入学試験結果

(博士後期課程を除く)

研究科・専攻	入学定員	志願者数	入学者数※	
文学	英米文学	20	33	16(12)
	フランス文学・語学	6	6	3(2)
	日本文学・日本語	6	20	5(3)
	史学	8	14	6(4)
教育人間科学	教育学	6	15	6(4)
	心理学	6	31	9(8)
経済学	経済学	10	18	5(4)
	公共・地域マネジメント	5	10	5(5)
法学	私法	10	16	3(0)
	公法	10	11	7(7)
	ビジネス法務	50	51	28(3)
経営学	経営学	15	82	19(8)
国際政治経済学	国際政治学	25	44	15(7)
	国際経済学	20	12	9(4)
総合文化政策学	文化創造マネジメント	15	35	16(5)
	総合文化政策学	3	1	1(1)
理工学	理工学	160	198	175(170)
社会情報学	社会情報学	30	21	13(3)
国際マネジメント	国際マネジメントサイエンス	6	0	0(0)
	国際マネジメント★	100	248	108(10)
法務	法務★	50	233	24(4)
会計プロフェッション	会計プロフェッション★	80	114	71(25)
合計		666	1229	555(292)

※( )内は本学出身者数で内数  
★は専門職学位課程

## 大学院・専門職大学院の制度

### 学内飛び級制度

学部3年次終了後、一定の条件を満たせば大学院に入学できる制度です。大学入学後5年間で修士の学位の取得が可能です。

- 経営学研究科
- 国際政治経済学研究科
- 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻

### 大学院科目特別履修制度

大学院進学を目指す学部4年生が、大学院で開講されている授業科目を履修できる制度です。学部生に大学院レベルの授業を履修する機会を提供しています。

- 文学研究科 英米文学専攻、フランス文学・語学専攻、史学専攻
  - 経済学研究科\*
  - 法学研究科
  - 経営学研究科
  - 国際政治経済学研究科
  - 総合文化政策学研究科文化創造マネジメント専攻
- ※先取り科目履修方式を2011年度より提供しています。

### 昼夜開講制

「開かれた大学院」を目指して、社会で活躍する方々が働きながら学べる昼夜開講制を導入しています。

- 文学研究科英米文学専攻
  - 教育人間科学研究科
  - 経営学研究科
  - 国際政治経済学研究科
  - 総合文化政策学研究科文化創造マネジメント専攻
  - 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻(専門職学位)
  - 会計プロフェッション研究科プロフェSSIONナル会計学専攻
- なお、下記の研究科・専攻では、平日夜間および土曜日の科目履修が中心となります。
- 法学研究科ビジネス法務専攻
  - 社会情報学研究科ヒューマンイノベーションコース



Aogaku Lecture ②

# マーケティング・プランニング・プロジェクト



宮副 謙司  
大学院国際マネジメント研究科 教授

青山学院大学大学院国際マネジメント研究科(研究科長:高橋文郎教授、通称:青山ビジネススクール、以下「ABS」)は、企業勤務者などの社会人(一部学部からの進学者を含む)が働きながら経営を学び、MBA学位を取得するビジネススクールです。

ABSは、その教育課程の中で、他のビジネススクールにない特徴的な科目として、経営理論を実際の企業活動に生かすための「体験的学習プロジェクト」という演習科目(通年)を設けています。

今回ご紹介する「マーケティング・プランニング・プロジェクト」という科目は、マーケティング領域での「体験的学習プロジェクト」であり、消費者のライフスタイル領域に関して、ABSと企業・団体が産学連携し、実際の企業のマーケティング課題やテーマについて、ABS学生が一定の期間をかけて現状分析、市場調査、事例研究を行い、今後のあるべき戦略や運営計画などをその企業・団体の幹部層に提案する科目となっています。(澤田直宏准教授と共同で担当)

2011年度は、「スポーツマーケティング」をテーマとして、プロ野球球団(東京ヤクルトスワローズ、埼玉西武ライオンズ)やスポーツ競技団体(日本トリアスロン連合)と産学連携して(企業・団体名は順不同)、プロジェクト活動に取り

組んでいます。

年度テーマをスポーツマーケティングと選定した理由は、スポーツ領域は現在の成長市場であり各社の活発なマーケティングが展開されていること、一般的な経営科目ではあまり扱わない企業・団体を研究対象にすることで新しいマーケティング・マネジメントの知見や経験を得られることが挙げられます。

また「スポーツマーケティング」を展開する対象は地域社会であり、その活性化に貢献できるという「ソーシャル」な面があることから、時代の要請に応える経営人材を育成するMBA教育に相応しい研究テーマであると考えています。

ABS学生は本カリキュラムを通じて、①マーケティング分析・ケース研究能力、②調査分析業務を設計・実施し、分析・研究する能力、③コンサルティング・プランニング能力、④グループメンバー協同でのプロジェクト遂行能力などを高めることが期待されます。

現在この科目の受講生はMBA2年生(最終学年)の11名で、3つのグループを編成し取り組んでいます。具体的な研究内容は、それぞれ次のようになります。ヤクルトスワローズは、青山学院に程近い神宮球場を本拠地にしていますが、同球団のマスコットキャラクター「つば九郎」のマーケティング・コミュニケーション戦略に

ついて研究しています。日本トリアスロン連合は、本部オフィスが青山にあります。その競技人口を現在より一層拡大するための戦略を検討しています。また西武ライオンズに関しては、西武ドーム球場で観戦する顧客動向とビジネスについて分析し、今後の対応戦略を立案するプロジェクトを進めています。

授業は毎週土曜日の午後に行われますが、この前期では、スポーツの現場(球場やイベント会場)に数回出向き、そのイベントプロモーション、施設、顧客動向などをフィールドマーケティングしたり、競技・球団ファン層のプロフィールや関心などを調査したりして、分析データを蓄積しています。7月には各学生グループで前期活動の内容報告をとりまとめ、それぞれの企業・団体の代表者に報告し、さらに後期に最終提案を行う予定になっています。

この科目の産学連携先は、青山学院大学の卒業生や、ABSの修了生が活躍する企業・団体、あるいは、そのリレーションから紹介された企業・団体であり、青山学院との強いつながりからこのような教育・研究の機会を得ていることができます。青山学院の先輩が活躍するビジネスを対象に、現役生が研究を行い、そのプランニングが実際のビジネスにも少しでも貢献できるという構図となれば素晴らしいと思っています。



日本トリアスロン連合への報告



ヤクルトスワローズへの報告

## INFORMATION

### 大学学費後期納付について

【納入期限】 9月30日(金) ※7月1日(金)から納入できます

#### 1. 振込依頼書について

##### 1) 2010年度以前に入学された方

本年4月上旬にお送りした納付書の「B 後期分」をご利用ください。ただし、教職・各種資格課程を申請された方は、後期納入必要金額に変更が生じています。該当する方には、6月末に再度振込依頼書を送付しておりますので、6月送付分をご利用ください。また、前後期一括で学費等を納入済みの方には、教職・各種資格課程料のみの振込依頼書をお送りしていますので、記載金額をお振込みください。

##### 2) 2011年度入学者

##### ① 入学手続き時に前期分学費等を納入された方

6月末に後期分の学費等振込依頼書を送付しました。教職・各種資格課程を申請された方は、後期学費に教職・各種資格課程料が加算されています。

##### ② 入学手続き時に前後期分一括で学費等を納入済の方

教職・各種資格課程を申請された場合、教職・各種資格課程料のみの振込依頼書を6月末に発送しました。記載金額をお振込みください。

#### 2. 振込手続について

本学指定の振込依頼書を利用し、金融機関窓口でお振込みください。ATM・インターネットバンキング等を利用してお振込みの場合は同封の案内文書をご参照ください。

#### 3. 学費に関するご相談・お問い合わせ先

振込依頼書裏面に記載の《ご相談・お問い合わせ先》にご連絡ください。

#### 4. 振込依頼書再発行のご依頼(未着・汚破損・紛失等)

財務部本部資金グループ TEL.03-3409-6479

(※大学院の学費納付については、大学院要覧を参照してください)

#### 2011年度後期学費一覧表 (2008~2011年度入学生)

単位:円

学 部	金 額
文 学 部	391,500
教 育 人 間 科 学 部	
経 済 学 部	
法 学 部	
経 営 学 部	
国 際 政 治 経 済 学 部	565,500
総 合 文 化 政 策 学 部	
理 工 学 部	478,500
社 会 情 報 学 部	246,000
文 学 部 第 二 部 *	

・教育職員免許状、各種資格取得の希望を申請した方は、別途教職課程料・各種資格課程料が加算されます。  
教職課程料7,000円、司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員(各2,000円) 教職課程料・各種資格課程料は、申請年度ごとに納付いただきます。  
・休学、留年、卒業延期、転部、編入学、転学部(学科)、再入学等をされた方は、上記学費一覧表と異なる金額が適用される場合があります。  
※教育学部は2008年度入学生

### 学部4年次留年生(休学期間を除いた在籍期間が5年以上)の後期学費納付について

【納入期限】 11月11日(金)

#### 1. 振込依頼書発送時期

10月17日(月)

#### 2. 納入金額

##### ① 前期分を所定の学費で納入した方

→後期学費は、4年次所定の後期学費(後期授業料)です。  
前期・通年科目申請単位数で、すでに「年間所定の学費上限金額」に達しています。  
そのため、後期科目申請単位数に関係なく、前期分・後期分とも所定の学費を適用します。

##### ② 前期に申請単位計算学費で納入した方

→後期学費は、下記の計算式で算出した、単位計算学費となります。

$$\text{単位計算学費} = \text{後期科目申請単位数} \times \text{単位料}$$

ただし、上記で計算した後期分の単位計算学費と前期納入済金額の合計が「年間所定の学費上限金額」に達した場合は、下記の計算式で算出した金額を適用します。

$$\text{後期納入必要額} = \text{年間所定の学費上限金額} - \text{前期納入済額}$$

納入必要予定額の確認は、財務部本部資金グループにお問い合わせください。

財務部 本部資金グループ TEL.03-3409-6479(直通)

## 「東日本大震災被災学生支援給付奨学金」緊急募金 結果報告と御礼

本誌第57号(5月発行)でお知らせした「東日本大震災被災学生支援給付奨学金」緊急募金につきまして、多数の応募をいただきました。本学ですでに、被災された今年度の新入生・在生(約200名)には被害状況に応じた特別措置を講じていますが、更なる就学継続支援としていただいた募金を給付する予定です。皆様のご協力に感謝するとともに、御礼申し上げます。

総額 15,920,500円  
(東日本大震災義援金からの3,000,000円含む)

なお引き続き、在学生支援を含む別募金「青山学院 エバーグリーン募金」を実施しております。ご協力いただける場合は募金事務局までご連絡ください。  
TEL.03-3409-6208 FAX.03-3409-3890

### 第18回 青山学院大学同窓祭

## AOYAMA GREEN FESTIVAL 2011



2011年9月23日(祝) 9:30~17:00 青山キャンパス  
懇親パーティー: 18:00~アイビーホール

チケット(福引き券付き) 前売 ¥2,000 当日売 ¥2,500  
懇親パーティー券 ¥4,000

※チケット代金のうち500円、懇親パーティー券代金のうち1,000円を、東日本大震災の義援金として役立てさせていただきます。  
なお、例年チケットに付帯している500円ポイント券はございません。

お問い合わせ、チケットのお求めは  
青山学院大学同窓祭実行委員会事務局まで

月・水・金 10:00~16:00 TEL.03-3409-8990

主催 ● 青山学院校友会大学部会  
協力 ● 青山学院校友会、青山学院女子短期大学同窓会、青山学院高等部同窓会、中中部緑会、くすのき会、いとすぎの会

Everything starts from You  
一わしたちから始めよう  
第18回青山学院大学同窓祭は、被災された本学学生へのサポートをはじめ、東日本大震災の復興を支援いたします。青山学院のモットーである「地の塩、世の光」にならない、「今、ここ」でできることからアクションを起こしましょう。あなたの一わしたちの歩みから、明日への道が始まります。



## 2012年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験日程

### ●一般入学試験 [全学部日程]

学部・学科	出願期間	試験日	合格発表日	入学検察日
全学部・学科(注)	1/4(水)~1/23(月) 郵送受付に限り (締切日消印有効)	2/7 (火)	2/14 (火)	2/21 (火)

(注) 社会情報学科はA方式・B方式で募集。  
※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は3月23日(金)です。

### [個別学部日程]

学部・学科・方式	出願期間	試験日	合格発表日	入学検察日				
理工学部 物理・数理学科 (A方式) 化学・生命科学科 (A方式) 電気電子工学科 (A方式) 機械創造工学科 (A方式) 経営システム工学科 (A方式) 情報テクノロジー学科 (A方式) 物理・数理学科 (B方式) 化学・生命科学科 (B方式) 電気電子工学科 (B方式) 機械創造工学科 (B方式) 経営システム工学科 (B方式) 情報テクノロジー学科 (B方式)	1/4(水)~1/26(木) 郵送受付に限り (締切日消印有効)	2/10 (金)	2/17 (金)	2/24 (金)				
		文学部 英米文学科 (A方式) フランス文学科 (A方式) 日本文学科 (B方式) 比較芸術学科			2/13 (月)			
					教育人間科学部 教育学科 心理学科	2/21 (火)	2/28 (火)	
						文学部 英米文学科 (B方式) フランス文学科 (B方式) 日本文学科 (A方式) 史学科		2/14 (火)
		総合文化政策学部 総合文化政策学科 (A方式)			1/4(水)~1/30(月) 郵送受付に限り (締切日消印有効)		2/15 (水)	2/24 (金)
		社会情報学部 社会情報学科 (A方式・B方式)						
		経営学部 経営学科 (A方式) マーケティング学科 (A方式)						
		法学部 法学科 (A方式)						
		国際政治経済学部 国際政治学科 (A方式・B方式) 国際経済学科 国際コミュニケーション学科 (A方式・B方式)						
		経済学部 経済学科 (A方式・B方式) 現代経済デザイン学科 (A方式・B方式)				2/19 (日)		
法学部 法学科 (B方式)	1/4(水)~2/6(月) 郵送受付に限り (締切日消印有効)	2/21 (火)	2/27 (月)	3/5 (月)				
経営学部 経営学科 (B方式) マーケティング学科 (B方式)								
総合文化政策学部 総合文化政策学科 (B方式)								

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は3月23日(金)です(正規合格者のみ対象)。

### ●大学入試センター試験利用入学試験

学部・学科	試験日	合格発表日	入学検察日
文学部 英米文学科 フランス文学科 日本文学科 史学科 比較芸術学科	1/14(土)、1/15(日) [平成24年度大学入試センター試験受験案内]を参照してください	2/14(火)	2/21(火)
教育人間科学部 教育学科 心理学科			
経済学部 経済学科 現代経済デザイン学科(2教科型・3教科型・4教科型)			
法学部 法学科(3教科型・4教科型)			
経営学部 経営学科(3教科型・4教科型) マーケティング学科(3教科型・4教科型)			
国際政治経済学部 国際政治学科(3教科型・4教科型) 国際経済学科(3教科型・4教科型) 国際コミュニケーション学科			
総合文化政策学部 総合文化政策学科(3教科型・4教科型)			
理工学部 物理・数理学科 化学・生命科学科 電気電子工学科 機械創造工学科 経営システム工学科 情報テクノロジー学科			
社会情報学部 社会情報学科			
出願期間			
試験日	1/14(土)、1/15(日) [平成24年度大学入試センター試験受験案内]を参照してください		
合格発表日	2/14(火)		
入学手続締切日	2/21(火)		

※各学部・学科とも、個別学力検査等は課しません。  
※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は3月23日(金)です。

### 文学部比較芸術学科入学試験情報

入学試験制度	募集人員	教科	配点
一般入学試験 (全学部日程)	7名	外国語	150点
		地理歴史または公民または数学	100点
		国語	150点
一般入学試験 (個別学部日程)	約35名	外国語	100点
		国語	100点
		地理歴史	100点
大学入試センター試験 利用入学試験	5名	国語	200点
		地理歴史または公民または数学または理科	200点
		外国語	200点

※比較芸術学科ではこのほか「自己推薦」「スポーツに優れたもの」などの入学試験制度を実施します。

## Club&Circle 8 古美術研究会

### 楽しく美術を鑑賞しながら、人間として成長できます

月に2回程度、週末に都内や関東近郊の博物館・美術館に出かけて古美術作品を鑑賞するのが主な活動です。その他にも年に2回鎌倉で寺社仏閣巡りをしたり、青山祭では庭園や建築の模型をつくって展示するなど、幅広く活動しています。また昨年度は春に箱根、夏に京都で合宿を行い、たくさんの美術作品を鑑賞してきました。それぞれの意見や感想を交換しあうことで、一人でただ鑑賞するよりも美術作品の知識や理解をずっと深めることができます。

「古美術」という名前から「堅苦しい」「難しい」といったイメージがあるかもしれませんが、特別な知識は必要なく、興味があれば誰でも大歓迎。美術作品の鑑賞を通して、みんなで人間として成長していければと思っています。私も入部するまで美術の知識はありませんでしたが、活動を通して美術作品の知識も広がり成長を実感しています。

メンバーの仲がよく、和気あいあいとした雰囲気ので活動できるのが古美術研究会の魅力。美術を通して仲間とつながるちょっとオシャレな大学生活を送ってみませんか。

(会長：法学部法学科3年 阿部 玲)



鎌倉散策にて



青山祭展示風景

## AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2011青山学院大学

- AGUニュースのバックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
  - AGUニュースを確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。
- 事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課  
相模原キャンパス→チューデントセンター・学生生活グループ



発行元：青山学院 本部広報部  
TEL. 03-3409-6578

●2011年7月27日発行●